

こころの便り

第222号

平成30年9月

〒679-1434
兵庫県たつの市新宮町大屋六六ハ一十二
株式会社新宮運送グループ
代表/木南 一志
kininami@shingu.co.jp
電話 0791-755-1212

社長ならどうするか

暑さ寒さも彼岸までという言葉の通り季節が進んでくれることを願ってはいますが、人間が乱してきた地球のリズムが回りまわって人間に戻ってきていると考える方が分かりやすいと思います。

いいニュースがありました。ひとつは二歳の男の子。「よっちゃん、かあちゃんだよー」と有線と呼びかけた母の声はあのボランティアのおじさんの心を動かしたのです。尾島さんのひと言が人間としてあるべき姿を導いてくれたように思います。マスクミがこのようにいいニュースを流すことで世の中はずいぶんと落ち着くことを実感された人も多かったことでしょう。

もう一つは、高校野球の秋田県代表の金足農業高校です。彼らは熱い心を伝えてくれたのではないのでしょうか。自分の中にもかつて存在していたいや、今もあるはずの純真な心を感動で思い出させてくれたように感じました。

「あなたはどうかですか。」
自分のことを棚に上げておいて、社長として社員の皆さんに問いかけます。ボランティアで人を助けましょうとか感動する仕事をしましょうなどと難しいことを言っているわけではありません。仕事を通じて、日々成長するように自分を磨いていますか。給料のためだけに働いてはいませんか。

仕事は自分を育ててくれる先生でもあります。それを、給料のためだけにしまつては勿体ないことです。我が社では、経営計画書に示した方針を書き写すという課題を出しています。強制ではありませんが、ほとんどの方が十二ヶ月続けてくださっています。

ちょうど、今月の課題は「守（修）・破・離」となっていますが、仕事に取り組むときの姿勢は、師匠の教えの通りに実行すること。師匠とは、自分の尊敬できる先輩のこととすれば分かりやすいでしょう。相談できる人を持つこと、身近に尊敬できる人を見つけること、まずやるべきは、この決断です。

いい加減な先輩を選ぶと自分もいい加減になっていきます。自分の人生を良かったと思える人生に変えていくきっかけは、憧れる存在を見つけることです。

カッコいいなという人を見つけたら、その人のまねをすること。ここから本当の仕事が始まります。やり方がわからなかったら、社長ならどうするかを考えてみてください。あなたの中にきっと囁く私の声が聞こえることでしょう。

よろしくお願いいたします。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拝

NPO法人 愛ランド様の協力で障害を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせて頂いていただいております。

尋常小學校修身書 卷五 兒童用

第十二課 進取の氣象

小左衛門が製茶・製絲の業を始めたのは、横濱の港が開けた頃で、外国では茶や生絲がたくさんいることに目をつけたからであります。

小左衛門は先づ茶の實を蒔いて、培養のしかたを研究し、製茶の法にも工夫を積んだので、数年の後には、たくさんの茶が出来るやうになりました。又其の地方の人人にも茶の木を植ゑることを勧めました。

小左衛門は又桑を植ゑて蠶をかひ、製絲の業を興しました。初は僅か二人の工女を雇ひ、手ぐりで絲をとらせておりましたが、次第に人数を増して仕事を大きくしました。しかし、手ぐりで



はどうしてもよい品が出来ないので、機械で絲をとることを思ひ立ちました。そこで機械の使用に熟練した人を雇ひ入れようと思つて、あちこちとさがしたがなかなかありませんでした。其の上、製絲にけいけんある人たちは、「新しい機械で絲をとるのは、利益が少いから、始めない方がよい。」と言つたが、小左衛門は、「これまでのしかたでは、とても外国にむく品は出来ない。」と言つて、新しい機械をすゑて、生絲を製することを始めました。しかし慣れないので、よい品が出来なくて損をしました。そこで小左衛門は上野の富岡に行つて、製絲法をしらべて歸り、また機械を改め其の數を増して、熱心に仕事に励んだが、やはりよい品が出来ず、また損をしました。小左衛門は進取の氣象に富んでゐるから、少しもそれに屈せず、新しい蒸氣機械をそなへ、又親類の者を富岡にやつて製絲法を習はせ、「生けんめに改良をはかりました。かやうに苦心に苦心を重ねた末、とうとう外国商人等もほめる程の、よい品が出来るやうになりました。又その爲にこの地方の製絲の業もだんだん盛になりました。